

## 団長の独り言

1月4日「稽古始め」

新年最初の稽古は、昼夜連続稽古でスタートした。

まずは受付リーダーの笠松さんと打ち合わせを午前10時から12時までびっしり行う。

笠松さんは、9月に開催した綾部公演観劇のため、東京から来てくれたので、新年のご挨拶と共に綾部まで来てくれたお礼を言う。

実は彼、受付リーダーの時は、本番中に何かあった場合に備えてロビーにて待機しているので、劇団ふぁんハウス公演をともに観たことがない。毎回「笠松さんも、本番観てね」と言っても、彼は必ずロビーで待機している。だから綾部公演で、「一観客」として心置きなくゆつくり見られた事は、とても良かったと、大変喜んでくれた。

そんな笠松さんとの念入りな打ち合わせを終えて、しばしの休憩をとっていると、メンバー達が続々とやってくる。皆さん、元氣！元氣！新年の挨拶もそこそこ入室許可が出ると、平野カ―満載の荷物を稽古場に運びこみ、櫻井君（櫻井太郎）主導の下、いつものように図面を見ながら、みなで手分け

してメジャーで寸法を測り、紐や養生テープで実寸通りの印をつけて、稽古場となるレクレーションルームを、にわか創りの「旅館希望の星」にする。

そうそう！この日はいつもの稽古場から飛び出し、本舞台と同じ間口のどれる広々とした施設での稽古なので、当然ながら皆のテンションも上がる。

本日の稽古予定では昼の部の稽古が後半通しと徹底的な抜き稽古、夜の部の稽古は、前半通しと前半の抜き稽古つて事にしてたのだが、せっかく実寸のとれるひろーい部屋での稽古なのだから「よし！」と気合を入れ、急遽「通し稽古」を行う事にした。

通し稽古というのは、芝居を最初から最後まで本番どおりに芝居を通して行う稽古の事。

「本番」を想定しての稽古なので、セリフが出てこなくても、トラブルが生じても芝居を止める事なく、何が何でも続けなきゃいけない。

通し稽古を行う事で、上手いと思うって思っていた場面転換の問題点や、衣裳の早替えも実は間に合わなかった：という事も出てくるし、あとは芝居を最初から最後まで通す事により、役者の動き、体力的な事、声の出す加減等々：色々な事も確認出来るという、いわば、これまで行ってきた稽古の集大成なのが通し稽古なのだ。

そうした、とても大切な「通し稽古」を、なんの予告もなくいきなりやる。

しかも、稽古のない1週間は、年末があつてお正月があり：と、いつもの日常とは違った時間をみな過ごしてきたわけで、稽古始めに照準を合わせて身体を調整していたであろうとは言えども、正直「めっちゃくちゃな通しになるだろうなあ」と思ったけれど、せっかくひろーい稽古場で、しかも時間もたっぷりある。

もともと新年第一弾の稽古は、ここで行うってのは、前々から分かつてはいたことだけど、前回の年末最後の稽古では欠席者がいたので代役だったという事もあるし、あとは、あまりにもダメを出す個所が多かったので、「正月明け」からいきなり全力全開の「通し稽古」ってのは厳しいかな？つてもあり、稽古始めは、「正月ボケ」を取り除くための調整という位置づけで、今日は行おうと思っていたのだが、本日、稽古開始の準備をしている皆さんが、あまりにもシャキシャキしていて、なんだろうなあ〜体中から「やる気」が噴き出しているのを感じたので、「一か八か」の心境で、「通し稽古」をやってみることにしたのだ。

その事を皆に告げると、「えー！通すんですかあ〜」というような雰囲気は

まるでなくて、普通に「わかりました」ってな感じなのはとっても意外だった。

ということ、まず昼間の部で約2時間10分の芝居を通してみると、当たり前って言えばそれまでだけど、全員ちゃんとセリフも入っていて、動きもいいし芝居の崩れもなく、予想以上にいい感じだったけれど、それでもダメを出す個所ってのはあるもので、多少の抜き稽古を行い、長い休憩の後、夜の部でも、もう一回「通し」を行ってみると、みなの本領発揮とでもいうのかな？テンポも良くて、これまで出してきた「ダメ」もほぼ通っていて、とても感触のいい「夏の夜空へ」になった。

そのことは、みな自信にもなったんじゃないかな？：とは思いますが、ここで油断するから、次の稽古がガタガタになる！それがいつものパターン。

気を引き締めて！稽古日数は、なんだかんだであと数回なんだからね。まあーそれでも、正月ボケもなく、ここまでのクオリティの芝居が出来たのは、まずは良かったかな？と、新年早々、幸先のいいスタートを切った劇団ふぁんハウスでありました。